

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-501544(P2005-501544A)

【公表日】平成17年1月20日(2005.1.20)

【年通号数】公開・登録公報2005-003

【出願番号】特願2003-525023(P2003-525023)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	9/16	(2006.01)
A 6 1 K	9/20	(2006.01)
A 6 1 K	9/28	(2006.01)
A 6 1 K	9/48	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 P	7/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/02	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 K	1/04	(2006.01)
C 0 7 K	7/06	(2006.01)
C 0 7 K	11/00	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	9/16	
A 6 1 K	9/20	
A 6 1 K	9/28	
A 6 1 K	9/48	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 P	7/00	
A 6 1 P	7/02	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	9/10	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	29/00	1 0 1
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 P	43/00	1 0 5
C 0 7 K	1/04	
C 0 7 K	7/06	

C 0 7 K 11/00
C 1 2 P 21/02 C
A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月29日(2005.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アミノ酸配列 X A_x A₃ A₁ A₂ A₁ Y を有するペプチド又は前記ペプチドの機能的等価物を含み、ヒトP-セレクチンに対する親和性を有する化合物。

(式中、

A₁がD-若しくはL-システイン(C)、D-若しくはL-メチオニン(M)、D-若しくはL-バリン(V)、それらのアナログ又はそれらの模倣物質であり；

A₂がD-若しくはL-アスパラギン酸(D)、それらのアナログ又はそれらの模倣物質であり；

A₃がD-若しくはL-フェニルアラニン(F)、D-若しくはL-チロシン(Y)、D-若しくはL-トリプトファン(W)、それらのアナログ又はそれらの模倣物質であり；

A_xがD-若しくはL-アミノ酸のアナログ又はそれらの模倣物質であり；かつ

Xが配列のN-末端側を示し、Yが配列のC-末端側を示す；又は

XとYが一緒になって環式系を形成する。)

【請求項2】

アミノ酸配列がN-末端又はC-末端にアミノ酸A₄を更に含み、A₄が親水性の側鎖を含むD-若しくはL-アミノ酸又は前記アミノ酸のアナログである請求項1記載の化合物。

【請求項3】

A_xが、D-若しくはL-グルタミン酸(E)を表すか又はA₂を含む、請求項1又は2に記載の化合物。

【請求項4】

A₁がバリン(V)である、請求項1又は2に記載の化合物。

【請求項5】

A₃がトリプトファン(W)である、請求項1-4のいずれか1項に記載の化合物。

【請求項6】

Xが少なくとも二つのアミノ酸を含み、その一つがアスパラギン酸(D)である、請求項1-5のいずれか1項に記載の化合物。

【請求項7】

環式骨格構造又は束縛骨格構造を含む、請求項1-6のいずれか1項に記載の化合物。

【請求項8】

請求項1-7で規定されるペプチド及びそれらの機能的等価物のうちの少なくとも二つを含む請求項1-7のいずれか1項に記載の化合物であって、

P-セレクチンへの結合に関して、前記少なくとも二つのうちの一つの親和性定数よりも1/20以上小さい親和性定数を有する前記化合物。

【請求項9】

請求項1-8のいずれか1項に記載の化合物を調製する方法であって、アミノ酸モノマー、アミノ酸オリゴマー又はアミノ酸アナログ若しくはアミノ酸模倣物質のモノマー若しくはオリゴマーが化学的又は酵素的連結によって組立てられ、その組立てが液相及び/又は機能的固相に対する界面で行われる前記方法。